

日本教育工学協会 (JAET) 「学校情報化認定」に挑戦してみませんか。

GIGA スクール構想がはじまり 3 年目を迎えています。1 人 1 台端末環境で導入された端末を授業だけでなく、様々な教育活動で利用しているのではないのでしょうか。

令和 5 年 3 月には「全国の学校における働き方改革事例集」が改訂され、GIGA スクール構想の進展に伴い、子供たちと同じ環境下での校務の DX 化を目指した取り組みが見られるようになってきました。

さて、「教育の情報化」をご存知でしょうか。文部科学省では、「情報活用能力の育成」「教科等の指導における ICT の活用」「校務の情報化の推進」を示しており、これらの推進には、「教師に求められる ICT 活用指導力等の向上」「学校における ICT 環境整備」等が必要とされています*。

今回は、日本教育工学協会 (JAET) の「学校情報化認定制度」をご紹介します。この制度は、「情報化の推進体制」を整え、「教科等の指導における ICT 活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校を称え、学校情報化優良校として認定するものです。2015 年 1 月から運用がスタートし、これまでに累計 1,732 校が優良校に認定されています。

まずは、日本教育工学協会 (JAET) のホームページから「学校情報化認定リーフレット」をダウンロードし、その中にある「学校情報化チェックリスト」で確認してみましょう。学校情報化チェックリストでチェックみると、教育の情報化についての自校の強み、足りない部分が確認できます。努力目標が明確になり、今後の取組の指標にすることができます。また、認定基準に達していた場合は、ぜひ、学校情報化診断システムに登録してみてください。

学校情報化診断システムに登録すると、全国の学校との比較や、既に優良校の認定を受けた学校の申請内容を参照することが可能となります。認定基準を満たしていた場合は、指定された教育の情報化に関する指導計画などの資料 (エビデンス) を提出することで、「学校情報化優良校」に申請することができます。その審査は、日本教育工学協会 (JAET) の役員で構成された学校情報化認定委員会によって行われ、学校として教育の情報化がどのくらい進んでいるのか客観的な評価を受けることができます。「学校情報化優良校」に認定された場合には、認定証と優良校ロゴが贈られます。 ※ 「教育の情報化に関する手引 (追補版) 令和 2 年 6 月」



学校情報化認定リーフレット

学校情報化優良校



※ 学校情報化優良校の認定の有効期間は、認定を受けた年度を含めて 3 年間です。認定期間が終了する年の 1 月から 6 月の間 (3 月を除く) にエビデンスを更新した上で、再度、申請してください。



教育の情報化に総合的に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現している学校を学校情報化優良校として認定します。

認定基準

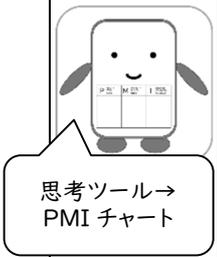
- ◆ 各項目のレベルが 1 以上 (0 の項目がないこと)
- ◆ 学校情報化チェックリストのすべての項目の平均が 2 以上であること

上記の基準を満たした上で、指定されたエビデンス (自己評価の裏付けとなる各種情報・資料) をすべて入力した学校を対象に、学校情報化認定委員会が審査して認定します。



JAET 学校情報化認定
ホームページ

学校名	東松島市立大曲小学校	教科、領域	特別活動(5、6年)
概要	<p>・主な学習活動 ○Withタブレの活用方法 ★Withタブレを活用した結果</p> <p>【特別活動と With タブレの活用】</p> <p>特別活動は児童生徒の主体的・自治的な取組が求められるが、「十分に話し合いの時間を確保できない」「一部の児童生徒の意見のみが取り上げられ、発言できない児童生徒はお客さん状態になってしまう」などの悩みを持っている教員も多いのではないだろうか。今回は With タブレと Google Workspace のアプリを活用して、小学校での委員会活動や学級活動での実践について紹介する。</p> <p>【委員会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先月の委員会活動の振り返りと、今月に行ってみよう活動を考え、話し合う。 委員会活動について振り返るため、「思考ツール」のページの「PMI チャート」を利用した。本来「I(Interest)」は「気になる点」について記述するが、児童の「こういったことをしてみたい」という主体的な気持ちを毎月持ってもらいたいという意図から修正した。PMI チャートの使い方は年度初めの委員会活動の時間で With タブレを使って行った。 ★ Google Classroom を活用すれば、児童が一齐に共同編集で取り組むことができるため、振り返りや話し合いの時間を大幅に短縮することができた。PMI チャートは小グループごとに取組ませ、児童同士の自由な話し合いの中で記入させた。すでに貼ってある付箋を参考にしたり、異学年で意見交換を行ったりして、すべての児童が付箋に意見を記入することができた。また、「I(Interest)」はそのまま今月取り組んでみたい活動の議題になるので、その後の活動にもスムーズに取り組むことができた。この PMI チャートは印刷し、放送室へ掲示した。 <p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級のみならず楽しんでもらえる学級会を行う。 「学級のみならず楽しむために、学級会でどんなことをしたいか」の事前アンケートを作成し、Classroom で回答を募った。アンケートは With タブレ「Google Workspace」→「forms」のページを参考にして児童が作成した。 ★ 学級会の前に「学級会で何をするか」という話し合いを行うが、事前にアンケートを取ることで、話し合いの時間を確保することができた。また、事前に自分の意見を整理でき、学級の話し合いに自分事として参加することができていた。 		
使用機材 ソフトウェア	児童の端末は Chromebook Google forms、スライド、Jamboard、Classroom		
県内の 先生方へ	各学校で ICT、情報端末の活用は進んでいるでしょうか。教科の授業の中で児童生徒が ICT に触れる場面は非常に多くなったと感じています。しかし、ICT の活用は教科だけではなく、今後は特別活動などの教科外でもどんどん広がっていくことと思います。大事なことは「児童生徒に選択肢を与える」ことではないでしょうか。宮城県の先生方と一緒に私たちも学んでいけたらと思います。		



4～5月の委員会活動について



【写真1】放送委員会で使った PMI チャート



【写真2】児童が作成したアンケート

編集後記

Mナビ新聞-情報教育通信-第21号はいかがだったでしょうか。今回は、日本教育工学協会(JAET)「学校情報化認定」を紹介させていただきました。各校での教育の情報化に関する取組を振り返ってみてはいかがでしょうか。(第21号担当 千坂)